

食べちゃおう！

3色を出しました。
レシピ考案・長崎春奈さん
(高森町)

- ③ ④の生地で③の芋あんを包み、ゆでる。
- ④ 白玉粉とそれぞれの野菜を混ぜる。
- ⑤ ④の生地で③の芋あんを包み、ゆでる。
- ⑥ なべにAの材料を入れ、混ぜながら加熱する。煮立ったら水溶きかたくり粉を徐々に加え、全体にとろみがついたら火を止める。
- ⑦ ⑤をくしにやし、⑥をかける。

●材料(5人分) ニンジン、カボチャ、ほうれん草各100g、白玉粉、からいも各300g、砂糖210g、A(しょうゆ大さじ1½、砂糖60g、みりん小さじ1、水50cc)、水溶きかたくり粉大さじ1

地域の資源を再発見し、自分たちの個性を見だし、身の丈に合ったものを自分たちの力でつくり、発信する。そうした「地元」の力を生かした地域が伸びると説く。国内外18地域の成功例から、「デザイン力」「発信力」「知恵力」「コミュニケーション」「編集力」「伝統力」「連携力」の7つを、その秘訣として紹介した。県内からは熊本市の福田病院が紹介されている。筆者は、本紙で「ふど力 金丸弘美の地域リーダー」を連載中。総務省地域力創造アドバイザー。(NTT出版・税別1600円)

も以外の野菜をキサーにかけて芋あんを作る。

県内で開かれた料理コンテストの入賞作品を紹介します。



ハマグリ炊き込みご飯を試食する参加者たち＝県庁

本



坂本常子(55)パート、熊本市

「「地元」の力 地域力創造 7つの法則」 金丸弘美著

市久木野(55)とセンター愛林館が、若者の森林分野への就業を考えようと企画。森林ジャーナリスト田中淳夫氏の基調講演や若手グループのパネルディスカッションがある。28日に同館の森づくり見学も。資料代5000円。夜の懇親会(3000円)と宿泊は事前申し

くらし面へのご意見

③ 学習ルーム

親子でチャレンジ!

国語 No.35

① 次の文章を読んで、あとの問

自己肯定感とは他人に与えても手に入れるべきものだ。場合によることであっても、自分が信じているだろう。ところが、今の若者たきたいとは思わない。たとえ、「こいな」という希望があったとしても「キミなら絶対できるよ」とい保証や承認がなければ、一步を踏希望も自分で取り下げてしまった。他者から自分を認められた気にならないまま、「さあ、何がしたいんだの毒といえは気の毒だ。」

とはいえ、「ゆつくりしたい」「者に、「キミが本当に望んでいるて自分が肯定され、必要とされるり話しかけても、理解はしてもらキャラクターなり沖繩のようなりた」という安堵感を体験することれからだ。「ああ、環境や他人になんだ」と体得した彼らが、そこ知らないために、結局は「沖繩でゆつくり……」といった際限のないに「生きるエネルギー」が目減「ゆつくりしたい」と訴える若者「やないか!」と怒鳴りつけても、り」ということばに彼らが込めては彼らを受け入れ、「ゆつくり」だ、若者たちも「ちよつとゆつくり踏ん張って立ち上がり、ゆつくり

航空券案内 (21日午後2時現在)

【熊本→東京】 日222324252627	○=空席	●=満席
7・35 SNA ○○○○○○	6・55 SKY ○○○○	
(ANA) ▼▼▼▼▼	7・50 SNA ○○○○	
8・10 JAL ○○○○○○	(ANA) ▼▼▼▼	
9・00 ANA ○○○○○○	8・10 ANA ○○○○	

【熊本→熊本】 日222324252627
6・55 SKY ○○○○
7・50 SNA ○○○○
(ANA) ▼▼▼▼
8・10 ANA ○○○○